

そうぜんじ便り

19世 俊諦和尚筆

第149号

令和4年 お盆号

臨濟宗 宗禅寺
建長寺派

住職 高井和正
閑栖和尚 高井正俊

羽村市川崎2-8-20
TEL 042-554-1276
FAX 042-578-3525

七月十三日～十六日の期間をお盆(孟蘭盆)といいますが、お亡くなりになったご家族の方がご自宅に帰って来ると云われている期間です。お寺ではお盆中に施餓鬼法要を営み、供養を行っています。
施餓鬼法要へのご参列は本年もコロナのため、新盆をお迎えする関係者のうち、ご希望される方のみとさせていただきます。

セガキ 施餓鬼 大法要

七月十五日(金)

◆十三時 受付開始・開場

◆十四時 孟蘭盆供養

セガキ 施餓鬼大法要

法要後にお寺からご挨拶

- 新盆以外の方は受付で供養封筒をお出しいただき、施餓鬼幡をもって墓参をして下さい。
- お盆期間中、施餓鬼棚を本堂前の庭にお出しします。墓参の折に水向け供養をして下さい。
- 先祖代々等、孟蘭盆供養のお塔婆を随時受け付けております。一本三千円です。
- 新盆をお迎えする皆様には、お申し込みにかかわらず、新盆供養のお塔婆を一本用意致します。
- お布施(施餓鬼供養料と付届け)は同封の封筒の通りです。ご協力の程よろしくお願い致します。
- お盆の早朝坐禅会がございます。七月十三日～十六日、毎朝六時から七時です。

◆宗禅寺俳句会

今号より宗禅寺俳句会の皆様の俳句を掲載致します。季節季節の情景を思い浮かべてお楽しみください。禅センターで毎月一回活動を行っています。

■梅雨近し 一と日降りては 一と日晴
遠足の しんがりいつも 遅れがち
中野つたえ

■筑波山 ふもとを泳ぐ 鯉のぼり
背くらべ 孫に軍配 子供の日
田村 章

■白き花 葉裏にかくす 柿若葉
青風 田に波残し 通り過ぎ
中野 満子

■見守るや 素足で駆ける 立夏かな
梅雨の月 テント芝居に 夢ごち
雨倉みよ子

■はくれんや 頭上も白し 地も白し
今朝の空 風も旅路の 五月かな
平井 敏正

■屋上の 芝に振花 天に伸ぶ
端っこに 向日葵咲いて 休耕地
島田 陽子

■漕ぎ疲れ 汗も滴る 上り坂
丁寧に 頭を下げし おじぎ草
島田 実

■深谷の 西岸燃ゆる 花火かな
子供の日 日又始まりし 好奇心
戸梶 功

■梅雨晴間 刻を惜みて 畑仕事
鯉料理 旅癒したる 夕餉膳
中野 良一

「ありがとうございました」 林心耳絵画展を終えて

宗禅寺 高井 正俊

はつきり覚えていないのですが、昨年（令和三年）の秋、鎌倉禅研究会でお世話になった慶應大学名誉教授の林温先生から、お電話がありました。

先生いわく「私の父は、絵かきで、五日市で永く活動をしていて、今、その絵を、どこかに寄贈したいと考えていると。六曲や四曲の大屏風もあるので、出来たらお寺がいいんだけど」と。突然のお申し出で、私も対応に困ってしまい、では、いづれ鎌倉でお会いしましょうということになった。正直、どうしていいのかが分からず、時間がたつて、先生から、又電話で、では十一月三日に建長寺でお会いすることになった。その前に先生から、お父さんの林心耳さんの個展の図録が送られて来ていた。素朴な、霊的な、土の匂いのする宗教的な作品があり、これなら宗禅寺で引き受けていいかなと思った。

建長寺で話は更に深まり、お父さんは幼い時、耳がきこえなくなったこと、画才を祖父が発見してくれたこと、五日市では建長寺派の玉林寺さんの近くに住んでいて、玉林寺のおばあさんと親交があったこと、

乙津の徳雲院の加藤耕山老師の下で、坐禅をしていたことなど、新鮮な身近な情報がたくさん入ってきた。その夜は小町通りのなか川で、一献傾け、又詳しい話しをいろいろ聞かされた。

そのことがあってから、色々と考えた。そして、浮かんできたのが、宗禅寺で展覧会をしようということだった。寺では春の文化展でお寺の部屋全てを使って作品展をしているので、その形を使えばいいと思った。そして、お寺、特にこの西多摩に関わるお寺に案内をして、関心をもってもらい、作品をお引き受けしてもらおうと。

息子の和正和尚が、図録を元に作品パンフレット、作者紹介を作ってくれ、多摩川仏教会と秋川仏教会の会員寺院に案内をすることにいった。

宗禅寺では、お正月の寺便りに、林心耳絵画・屏風絵展覧会を行うお知らせを掲載した。

一月二十日には、林温先生、五日市に住むの先生のお姉さん長友夫妻が見え、会場となるお寺の本堂、南の間、禅堂、隠寮、客殿をくまなく見て回り、作品の配置を考

えた。

そして、搬入となった。二月十一日に運び込む段取りであったが、当日雪が降る天気予報があり、林泉寺さんのご葬儀のあと、島田屋さんに急遽お願いして、ホ口付きのトラックで、五日市から大物の屏風など運んでもらった。大正解で、長友さんの車も合わせて、搬入は実にスムーズにいった。幸い、雪は降らなかった。

作品の配置は、大物は本堂、南の間、禅堂に。あとは隠寮、客殿とした。作品の数は、当初150点などと聞いていたが、会場を見て安心されたのか、250点強になった。林先生、長友夫妻、たまたま朝の坐禅にきていた中国人の鄭さんの協力を得、手際よく配置されていった。

前もって打診のあった、徳雲院さん、福徳寺さん、即清寺さん、玉林寺さん、宝清寺さんは初日の十一日にお出で下さり、希望の作品を次々と決めて行かれた。なにしろ、作品数が膨大なため、お持ちいただくことが先決となった。勿論、無償。そして、前もってはお知らせしていなかったのだが、林先生とお姉さまの意向もあって、希望する方々には差し上げることになった。十一日は写経会、そして、十二日は午前中からこや、夜は坐禅会があり、林先生にはたらこやの子供や大人に絵のお話、そして土曜講座では講師をして、父林心耳さんのことを、たっぷり丁寧にお話ししていただいた。ここに参加していた方々が、次々と作品を

予約、更に期間中には友人をさそい見学に来て、又、絵を予約していつてくれた。とにかく、作品があふれているので、持ち帰れるものは持ち帰っていた。下火になったとはいえ、コロナ禍の行事、心配はしていたが無事に終わった。

思わぬきつかけで、寺でこのような大イベントが出来、大成功に終わったことは、とてもありがたいことであった。林温先生の別紙のとおり、林心耳さんも喜んでいただけたのではないかと思います。林先生、お姉さま方ご夫妻、ご来場いただいた方に深く感謝し、林心耳さんの絵から、安らぎと希望をもっていただけたらと思います。最後に展覽会をまとめます。

○令和四年二月十日、十一日搬入、展示。十一日午後オーブン、二十日まで十一日間

○作品数二五〇点。

○お持ち帰り二〇〇点。

○お寺様六カ寺、作品所有者五十七人。

○お寺内訳

即清寺（青梅市柚木）

三点

玉林寺（あきる野市五日市）

四点

福德寺（あきる野市油平）

四点

徳雲院（あきる野市乙津）

二十点

宝清寺（あきる野市小川）

四十七点

宗禅寺（羽村市川崎）

二十点

○あきる野市宝清寺さんでは、寺の会館に展示を下さり、林心耳美術館として下さいました。乙津の徳雲院さんでも禅堂を展示場にして下さりました。だれでも作品

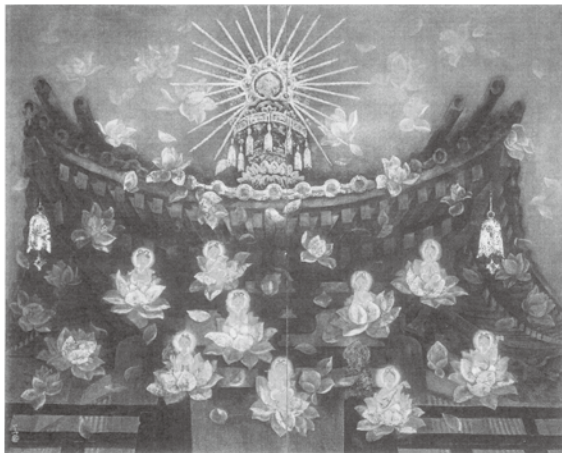
が見れます。ありがたい限りで林心耳さんが大満足をされていると思います。○先生から皆様に図録をいただきました。鑑賞の手引きとしてお使い下さい。

○宗教新聞の「中外日報」に記事として、全国に発信されました。

○羽村市、あきる野市、福生市、青梅市を中心に林心耳さんの作品が地域の中で守られ、皆さまに愛されていきます。皆さま、ありがとうございます。

※林温先生とお姉さんの長友さんの住所は次の通りです。感想など、ありましたら、ご連絡して下さい。

○林温
〒二四八〇〇一三三



▲夢殿協奏 二曲一隻（あきる野市 宝清寺蔵）

鎌倉市材木座四―十二―七
Mail: thomas0526@gmail.com

○長友恵以子
〒一九〇〇一六四

あきる野市五日市九八六
TEL 〇四二―五九六―四七九九



▲華嚴(奈良の大仏) 六曲一隻（宗禅寺蔵）

林心耳作品に付して

— 御礼と御願い —

林 温

宗禅寺高井正俊和尚様のお勧めで故林心耳の作品を展示し、御縁を戴いたお寺様に多数御奉納できた上に、ご希望の方々にもおわけすることができましたこと、誠に望外の喜びでありありがたいことであると感じ入っております。ここで改めて遺児である私と姉の思いの一端を披瀝し、御礼と御願いに代えさせて頂きたいと思えます。

父は「売り絵」という言葉を最も嫌っておりました。父にとつて描くという行為は自らの生きざまそのものであり、何よりも貴い任務でありました。「売る」ために描こうとすれば自分の心を束縛し、どうしても他人におもねる邪心が忍び込みます。ひとが褒めそやそうとも、自分の心が納得しないものを描くことは、自分の人生を汚す恥ずべき行為であると言ひ、純粹性を頑なに守ろうとしました。ですから、ほとんど売れない状態であったにもかかわらず、自分で適切とする自作品の値引きには一切耳を傾けようとせず、ひそかに母を失望させたものでした。より良い作品を求めて画材料に糸目を付けぬ父の傍らで、母は家計を

支え子ども達を育てるのに呻吟し続けていたからです。

この度、父の多くの作品をお寺様に御奉納致しましたことは、それが父のためにも、父の作品の為にも最も良いことだと信じるからです。父は聴覚障害のために人と満足に会話ができず、交渉の場では傷つき疲れ、結局孤独な人生を余儀なくされましたが、元来は人好きで楽しい語らいの場を希求していました。自然を愛したのは単に美しいからだけではなく、決して裏切らないからではないかと憶測します。縄文土偶や埴輪に魅せられ古代の生活に思いを馳せ、またエジプトやインドの壮大な遺跡群とその傍らで生活する素朴な人々に心を寄せたのも、同じ心情からでしょう。父は争いごとを厭い、平和で純真な世界を憧憬し、作品の中に描き続けましたが、そこにしか自らの心を休めるところがなかったからかもしれませぬ。奈良の古寺を訪ねたのも古代の純朴な人の心を探すためだったのでしょう。そうした心の中に目に見えぬホトケは影現し、天上の楽の音を聴き取ったのではないでしょうか。

そんな孤独な父の心は、お寺で多くの善男善女と出会うことよって氷解し、静かに、穏やかに語り始めることができるだろう、そのように私も姉も思います。この度、

お寺様以外にもご希望の方々に作品を無償でお分けしようと決めたのは、上のような事情で父の作品を売りたくなかったからです。少しでも家計の足しにと願っていた母も、きつと同意してくれるでしょうし、こんなにも多くの方々に喜んで頂いたことをだれよりも深く幸いに思っているに違いありません。良い作品ができあがった時にみせた母の興奮気味の笑顔を、いまもって忘れえないのですから。

美術研究を職業とする私がこれまで父の画業について緘黙してきたのは、肉親ゆえに客観的に見るのが難しいというばかりでなく、産みの苦しみを傍で見続けてきたがゆえの複雑な思いが交錯するからです。一点一点の作品それぞれが私には大切なものであり、と同時に心の重石でもありました。ですから、こうして作品のほとんどが手許から離れたいま、正直言つて放心状態に近いものがあり、歎びとともに一抹の寂寥感も禁じ得ませぬ。

林心耳の作品は、絶えず見続けながら心の耳で聞き取った幽かな「声」を描き込めたものです。ですから、静かに作品と対話するように眼差しながら、心で聴き取るように鑑賞していただきたい願ひます。そうして末永く愛でて頂けたら幸甚に存じます。

「リアルてらこや」 を始めたこと ①

らいむぎハウス代表 水嶋 恵子

はじめまして、らいむぎハウス代表の水嶋と申します。私は羽村市川崎で生まれ育ちました。この度宗禅寺さま(さん)のご厚意により場所を提供して頂き、学習支援を中心とした、子どもの居場所づくり「リアルてらこや」を毎月第二土曜日の午前中に開催しています。活動を始めてから9カ月が経ちました。色々なよい出会いやよい変化を見ることができ、とても嬉しく思います。



▲みんなで、おにぎり作り

今回は初めての寄稿ですので、少し自己紹介を兼ねたこれまでの経緯をお話させていただきます。

私がこのような活動に至ったのは、さかのほること羽村第一中学校の1年生の時の担任の先生の影響が大きかったと思います。先生は「勉強は、自分のためだけでなく、人のためにやるもので、世の中のために役にするために生きることが大切だ」と言っていました。

当時、数人の仲間と「風のごとく会」というボランティアのグループを作り、その活動を全面的に応援してきてくれました。駅前の掃除など美化や市内の一人暮らしの高齢者の方に手紙を出し、何かする事はなかななど庭の掃除などしたり老人ホームを訪問したりなどの活動をしました。今でも介護施設にクリスマスカードを贈る活動として残っているようです。

その時の経験がきっかけとなり、今があります。

私には2人の息子がいます。彼らも成人し、今思うことは、「教育の大切さ」です。これから地域の子どもたちのことに関わっていくために、もう少し勉強をしたいと思い、次男の大学受験の時に合わせて、私も大学に通いました。

大学で勉強したことや、これまで10年以

上学校関係で仕事をしていたことなどを、地域の子どもたちに還元出来たらと思っていたところ、宗禅寺さんとの出会いがありました。正俊和尚さんが、「てらこや」や「子ども食堂」に従事されていたことを聞き、この偶然は偶然を超えた、「邂逅」というべきものだなと感じました。そして、去年の8月「第一リアルてらこや」が動き出して現在に至っています。

これからも多くの皆様にお世話になりながら、地域の子供たちの居場所を作りたいと思っています。



▲新聞づくり

クラウンパレード

募金をいただきました皆様
ありがとうございます

五月二十九日の日曜日に水族館劇場の特設舞台にてクラウンパレードと題するイベントが開催されました。水族館劇場の桃山さんと旧知の間柄で、クラウン研究の第一人者でもある作家の大島幹雄さんの呼びかけで行われたイベントです。

現在も戦争が続いているウクライナは、旧ソ連ということでサーカス大国でもあり、大島幹雄さんとご縁のあるウクライナの方々への支援のためのチャリティイベントでした。

特設舞台終了後には、お寺の地元地域をパレードで回り、支援の募金を呼びかけさせていただきました。

大島幹雄さんご自身がブログにて当日の御礼を記して下さいっておりますので、ここに掲載致しまして、募金に御協力いただきました皆様への御礼とさせていただきます。ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

クラウンパレード報告

作家 大島 幹雄

今年初めての真夏日となり、三〇度を越えるなか、「クラウンパレード In Tokyo」が開催されました。たくさんのお客さんが集まり、ほぼ満席の中で、公演が行われました。十組十八人のクラウンとミュージシャンが出演、休憩をはさんで二時間半のショーを演じました。素晴らしい公演でした。客席には笑い声が響きわたり、時折手拍子もとられたり、クラウンのおかしな演技に子供たちが声をかけたりと、クラウンの公演らしい暖かい雰囲気です。満たされていました。

会場となった宗禅寺が、この公演のためにチラシを自ら印刷、檀家さんたちにDMで送るなど積極的な動員をはかってくれたこともあり、近隣の人たちが家族や近所の人たちを誘い合って、数多く来場してくれました。東京や横浜でやる公演とは違っていました。クラウンの演技を初めて見る人たちが多かったのではないかと思います。そしてとても楽しんでくれたようでした。私は開演前に簡単な挨拶をしていたこともあって、公演後たくさんの知らないお客さんから「面白かったよ」と声をかけられました。その



ときの笑顔が本当に楽しんでいただけたことを物語っていました。これはうれしかったです。羽村でやってよかったとつくづく思いました。地域の人たちがこうした場集って、クラウンという芸があることを知って、楽しんでもらい、「笑いで平和を」という思いをウクライナからひきついでやっているという今回の公演の意義を知ってもらい、その思いを共有できたとしたら、こんなうれしいことはないし、大きな意義があったのではないかと思います。そんな思いは、



この日三雲いおりがつくった募金箱に集まった寄付が物語っていると思います。集まった募金は十一万四千四百六十円という大きな金額になりました。ちなみにこの日の売り上げは十九万千円でした。これらのお金は、コメディアアード開催のためにつかってもらうためにウクライナに送られることになっていきます。

参加してくれたクラウンの中には静岡から駆けつけてきた人たちもいましたし、骨折してリハビリ中と杖をついて参加してくれた人もいました。皆さんノーギャラ、手

弁当、交通費も自費というにもかかわらず、すべてのクラウンさんが最後お別れするときに、「こんな素晴らしい企画に出させていただきありがとうございます」と言ってくれたのには、ぐっときました。

それぞれが自分たちの個性を生かしたクラウンングを見せてくれました。音響との合わせをする場当たりも、笑いが絶えない、和気あいあいとしたものでした。公演後もクラウン同士でいろいろ交流もあったようです。やはりこういう場は必要だということも痛感しました。

なにより、一番感じたことは、このイベントがたくさんの人たちの協力で、出来上がり、そして成功裏に終えることができたということでした。

クラウンたちに声をかけ、構成や進行を担当してくれた三雲君、三雲君と同じくコメディアアードに参加したななは、来場した人たちにオデッサで開かれているこのフェスティバルのことを知ってもらいたいと展示コーナーをつくってくれました。

石巻のライブハウス「La strada」の相澤ご夫妻は、水族館劇場を見に来たついでにこの公演も見るともりだったのを、私から思い切り振られた音響とビデオ撮影という大役を果たしてもらいました。三雲君がコメディアアードというフェスティバルを日本でも知ってもらいたいということでは

じめた石川町コメディアアード（横浜市）のスタッフの山村祐子さんは、受付業務を担当、かつて私が勤務していたACCではチケット予約をすべて管理してくれました。みなさんまさに手弁当で、今回の公演を成功に導いてくれました。そしてなによりもこの会場を提供してくれた宗禅寺には大変お世話になりました。高井住職の発案で、公演後は近隣をパレードしたのですが、この時は住職自らが先頭にたち、托鉢を呼びかけてくれました。そのためもあってこのパレードでかなりの募金を集めることができました。

なによりうれしかったのは、水族館劇場が、台本が完成しないために一週間延びた初演の幕をあげたばかりで、忙しい最中に自分たちがつくった舞台を提供してくれただけでなく、わざわざこの日の公演のために「Clown parade in Tokyo」の看板までつくってくれたことです。

たくさんの人たちでできた公演、それは「笑いで平和を」という思いで結びついたからではないかと思えます。

この公演でクラウンパレードの行進は、ひとつ大きな橋を渡ることができたのではないかと思っています。この橋は「笑いで平和を」という思いを抱いた人たちが力を合わせて架けたものです。本当の平和がくるまで、行進はまだ続きます。

五月二十七日から六月十四日まで宗禅寺の第二駐車場に特設舞台を自ら製作して劇団水族館劇場が公演を行いました。羽村公演二年目を迎えた水族館でしたが、座長（自称副司令官）の桃山邑さんに重篤なる病が発覚し、桃山水族館は本年限りとなりそつです。

今号から劇団の創設者である桃山さんが劇団の機関誌である『フイツシユボーン』に執筆された「水族館劇場とはなにか」を連続掲載致します。桃山さんは藝能としての水族館劇場の道を追求されてきました。水族館のお芝居は大がかりな舞台装置や仕掛けに注目が集まりますが、芝居の中身からは、かつて村で行われていた青年団のお芝居のようなどか飾らない親しみやすさが感じられ、普通の人による普通の人のためのお芝居なのだ改めて感じました。劇団は来年もこの地で公演を行うことを希望しています。ここに桃山さんの想いを掲載させていただきます。劇団に対する宗禅寺関係者皆様方のご理解が深まっていたければ有難いと思っております。

難破船を慈しむように — 水族館劇場とはなにか — 桃山 邑

1 座礁から復活まで



ぼくに残された時間はそれほど多くない。恐らく来年は宗禅寺の大地に両足を踏ん張って野戦攻城を続けることは無理だろう。困った。じつに困った。けれど

いつだってぼくは最後の戦いと覚悟して芝居現場に趣いてきたのだし、どん底から水族館劇場の復活をなしたとげたメンバーには、いつの世から桃山が消滅しても役者徒党を継起し続けるように説いてきた。

八年前の劇団分裂をとまなうお家騒動の後、野戦攻城再生のきっかけを探すように、「さすらい姉妹」の年末年始寄せ場巡演の台本を書いていた。「ちべたすれすればったもん」のタイトルを持つその芝居は当時の役者たちの、不安と矜持が縋（な）い交ぜになった心境を、そのまま物語に組み込

もうと試みた背水の舞台だった。偽物であることに居残り、模倣を突き抜けることにあたらしい可能性を見齎（みはる）かす精神を舞台に反映させる実験だった。水族館劇場に足を運んでくれる一般の客はなにがなんだかわからぬうちに解散という噂に戸惑い、ほとんどの役者が去った芸濃町公演に首を傾げたことだろう。それほど周到に造反劇は準備されていた。

水族館劇場をむかえ入れ、そだててくれた駒込大観音の島田住職は数年の後に、ぼくらが花園神社に凱旋したとき、あれほどの大量引き抜きをされた桃山はもう二度と立ち直れないだろうと述べた。まあ自業自得だけだね。藝能の原像すら想像できない小劇場あがりの神経症と、その嘯（うそぶ）きに乗った愚かな数人の役者には露ほどの未練もない。長い歲月、友人として協働してきたと思っていた同世代の仲間、掌を返すような裏切りにも慣れた。怒りは尽きなかったが不思議なほど怒みはない。そう云えばエドワード・サイードがい

スラエルの空爆に対しておんなじこと書いてたような気がするなあ。

芝居の才能がないのはどっちもどっちだが、加えて信義のかけらもない節操のなさにはあきれ果てた。誘いすらかけて貰えなかった役者のひとりが呟いた。結局桃ちゃんが無かったんだよ。目の上のたん瘤だからさあ。担いだ神輿を放り投げたんだよ。誰だってじぶんが親分やればもつといい舞台が出来るって考えるもん。台本ひとつ書けない奴がご立派なこつた。家父長（吐き

気がするほど嫌な言葉）にでもなつたつもりでいるのか。ついでにご立派な奴らの振舞も報告しておこう。新生水族館（でも風見宇内が解散宣言によって彼らに看板を盗ませなかった）となるはずだったあたらしい劇団の旗揚げに千代次が取り残された役者たちをひきつれて観劇（殴り込みではありませぬ）にいったが後ろめたい人間どもはこそそこそと逃げ隠れた。すぐにぼくらが再生のための活動をはじめたときには挨拶にも来ない。弄言に騙されなかった津田三朗とまこ夫妻、山本紗由が復活へとちらを貸してくれた。彼らにさえ秋波を送って合流させようとしたみたいだけどね。悪知恵はすぐに発覚するよ。つづいて羽鳥書

店、伊藤裕作、近藤ちはるたち東京周辺のサポーター、静岡の近藤道彦・亜美夫妻ら、たくさんの協力人がほくを支えてくれた。法政大学前総長の田中優子はじめ、田中純、毛利嘉孝、人文学の錚錚たる人脈が味方につき、大島幹雄、鬼海弘雄、鴻池朋子、在野の表現者たちも応援してくれた。

将来がみえないのを承知でともに復活を賭けたかけがえない仲間たち。ちから及ばずとも必死に舞台に齧り付く、その姿勢になんとか報いたいと言葉を書き連ねた。ぼくの怒りはたしかにパワーになったけれど、随分無理も重ねた。身体の内部分が軋みをあげて毀れてゆくのを自覚した。だが後悔はない。従ってきたメンバーは怒鳴られながらも本当の想像力を鍛える修業をしている。遊びを蕩尽しつくした果てにたどりついた無私の境地のようなもの。（この関係は外野の人間には理解できない。ましてNHKになんぞ見抜けるわけがない）。小屋掛けをなめた作業にぶつける言葉は決してパワハラなんかではない。危険のともなう仮設作業の工程で慣れと自信から、つい手を抜いてしまう自惚れの芽をいち早く摘取るセーフティネットなのだ。烈しい叱責を若い劇団員の「慣れっこになった」とい

う自信過剰のつぶやきで切り取って「感情的な権力」VS「余裕で受けとめる建込み部隊」というイメージをつくりあげ、決定的なミスをごまかせてしまう。映像に責任を持つディレクターがいる以上、取材する側が何を撮りどう編集するかはご自由にと許可した以上、直接の批判はさし控えた。だが全国ネットで流された映像だけが真実ではない、と伝えることはぼくの権利だ。人の命に直結してしまう手抜きだから注意をうけたにもかかわらず何度でもおなじ過ちを繰り返すから許せないのだ。そのことが外野にはわかってもらえない。人生日暮れてなお道遠し。とほほな気分が全身に纏わりついてくる。ユンケル飲んで出直したい気分だぜ。

もちろんぼくたちは仕事として芝居をしているわけじゃない。流行の言葉で云うならブルシットジョブを拒絶するために、管理と支配の網の目がからまりあつた社会から望んでこぼれおち、じぶんたちでつくりあげた掟（ルール）のなかで自由に泳いでいるだけなのだ。法ではなく、水族館劇場という群体だけで共有する厳しいふるまいの規範のもとに。

今年のNHK大河ドラマは、「鎌倉殿の13人」が放映され、中世の時代が注目を集めています。

羽村の中世は、どのような時代であったのでしょうか。羽村東小学校の南側に、多摩川から見ると少し高い丘になっているところがあります。現在の第三水門の上に位置するところです。そこに、大石遠江守が住んでいた屋敷があったとの伝承があります。今はこの屋敷はありませんが、付近に遠江坂という地名が残されています。屋敷跡から多摩川方面を眺めると見晴らしがよく、要害の地であったことが分かります。

江戸時代後期に書かれた『武藏名勝図絵』に、「この遠江守は初め四郎左衛門、後に左馬助」と言う書かれています。大石氏は、南北朝から戦国時代にかけて主に多摩地方を中心に活躍しました。鎌倉府に設置された関東管領山内上杉氏に属し、関東守護代や代官を務めていました。大石氏については、従来八王子市の旧家に伝来する「木曾大石系図」と「芹沢家系図」によりその歴史が語られてきました。しかし、これらの系図と同時代の史料と比べて、系図に現れる人名や活動の時期が一致しないことが多くあることが分かってきました。最近では、大石一族を大きく三つの系統に分類し、研究が進められています。

三つの系統は、遠江守系、岩見守系、駿河守系です。『武藏名勝図絵』にある「左馬助」は、駿河守系の大石氏に關係する人物のようです。駿河守系の初代は、大石重伸で四代目に大石左馬助高

伸という人がいます。大石高伸は、福生市の石川家や青梅市の虎柏神社の文書にその名がみえます。年代は、永祿四年(一五六二)と永祿六年(一五六三)です。

一方、「四郎左衛門」は、「左馬助」とは別の人物で「四郎右衛門」が正しいようです。大石の本宗家にあたる遠江守系の大石秀信が、四郎右衛門を名乗っています。天正二年(一五八四)天野文書と天正十五年(一五八七)の杉田文書(奥多摩町)に四郎右衛門(秀信)名の書状が残されています。

遠江坂付近にあった屋敷に、誰が住んでいたのか。大石重伸は、あきる野市の二宮神社周辺にあったとされる二宮の城を拠点としていたので、重伸の後裔である高伸がこの羽村に住んでいたと考えても、距離的に見てもおかしくはありません。しかし、高伸の官職は駿河守であって、遠江守ではありません。遠江守を名乗るのは秀信です。大石遠江守の館にいたのは、大石左馬助高伸か大石四郎右衛門秀信か今のところ不明です。大石氏の居館があったと言うことも、伝承ですから確実なことは分かりません。屋敷地を発掘調査することにより、その痕跡を確かめることができますが、大正五年(一九一六)、村山貯水池建設のための導水管建設により敷地は掘削されているため不可能です。

最近、区画整理事業により川崎地区を中心に発掘調査が行われています。この調査によって、羽村東小学校南側付近に中世の井戸が発見されました。

井戸の大きさは、表面が約三・四メートルのほぼ円形で、底は約一・四メートル、深さは二・一メートル、断面はすり鉢状となっています。中

世の井戸の検出例は、多摩地域では日野市の栄町遺跡に続く二例目であると言われています。

中世の井戸は、すり鉢状に掘られた地面に、上部には井桁を組み、筒の部分の井戸側は方形の縦板を土留めとし、底には湧き水をためるための曲げ物を置くのが一般的な形式でした。

井戸が発掘されたことは、中世の時代にこの付近に人々が住んでいたことを証明してくれましたので、大石氏の屋敷があった可能性が高くなりました。

また、井戸付近から北宋銭が二点出土しました。日本では、飛鳥・奈良時代に「和同開珎」などの貨幣が製造されましたが、豊臣秀吉が貨幣を製造するまでの間は、日本では造られることなく、宋や明などの中国をはじめとする東アジアで製造された銅銭が使用されていました。一般的に、渡来銭と呼ばれています。

八王子、調布、福生で中世に使用された大量の埋蔵銭が、豪族の屋敷地であった場所から発見されています。

今回出土した銭は、「紹聖元宝」と「聖宋元宝」の銘が刻まれています。大量に埋蔵された銭貨の一部であったとも考えられます。

大石遠江守の屋敷付近には、大石氏が創建したと伝えられる児魂神社や東側に三〇〇メートルほど行ったところには、天正十一年(一五八三)に再建された薬師堂(現在、宗禅寺境内)が建っていました。今後、この神社やお堂について、大石氏との関わりを検証していく必要があります。

《参考文献》

- 『論集戦国大名と国衆1 武藏大石氏』
- 『新八王子市史通史編中世』
- 『多摩のあゆみ第九八号』

正俊閑栖未完成日記

梅雨に入りました。コロナはなんとなく一服。ウクライナは長期化。プーチンのおかげで世界中が大混乱。ウクライナの人、ロシアの兵士がどれだけ亡くなるのか。一個人がこれだけの人を虐殺することが出来るのか信じられません。悲しいことです。明るい未来を信じましょう。

- 林心耳さんの展覧会、中外日報の甲田さんが取材に来てくれました。 2/15
- 寺子屋委員会 川崎の歴史・馬方の話しなど学ぶ。月一回の学習会です。 2/16
- 二月十一日から始まった林心耳展。おかげさまで大盛況で終了。報告は、この頼りに掲載してあります。 2/21
- 宗禅寺もコロナの来襲を受けました。寺族や行事に影響を受けました。経過の報告は折を見てお知らせします。
- 『仏像破壊の日本史』古川順弘。宝島出版社、読了。廃仏毀釈のこと。 2/22
- 水族館劇場監督・桃山邑さんより、今年も演劇やりますとの連絡。 2/24
- コロナもありましたが、二月をなんとか切り抜けました。たくさんの方々に助けられました。今月の来山者は八七〇人でした。ありがとうございます。
- 三ヶ月
- コロナワクチン三回目。症状なし 3/1
- 鎌倉ペンクラブ会報掲載誌届く。親交のあった愛媛県弓削島の自性寺住職の計報が届く。コロナ死とのこと。馬詰眼科で定期検査。眼圧少し高し。 3/2
- 鎌倉塾で鎌倉へ。岩岡寛人教育長の話をじっくり聞いて談論。すごい。 3/3
- 鎌倉ペイのことで浅野・雨宮・町田氏来山。

- 目的について語り合う。 3/4
- コロナ禍で坐禅会。初めて休会 3/5
- コロナ禍で朝粥坐禅会も休み。薬師講、灯籠流し協議三十人。 3/6
- 馬詰眼科へ眼圧平常にもどる。愛用していた革の手袋、落す。ガツカリ。 3/9
- 東日本大震災追悼写経の会。二十一人で。鎌倉御代川で東城裕子さんご家族と夕食会。夜、つぶソングの集いで、大震災追悼諷経、鎌倉生涯学習センターで二百人の参加。般若心経独唱。 3/11
- リアルでらこや三十人。土曜講座四十人。土曜坐禅会十人。寺平常に 3/12
- 宗禅寺護持会の方十一人。彼岸掃除をして下さる。益・歳末も。感謝。 3/13
- 春の彼岸に入る。彼岸早朝坐禅会。 3/18
- 彼岸の墓参の方で駐車場、満杯 3/19
- 写経会九人。彼岸のお経を唱和 3/21
- 勉強部屋の冷暖房故障。フジ電さんが一日で取り換えてくれる。助かった。寺子屋委員会の勉強会十人全員。 3/22
- 鎌倉、松ヶ岡文庫（鈴木大拙設立）の評議員会、議長をつとめる。 3/23
- 彼岸明け、期間中千人近い方が墓参に來られました。 3/24
- 水族館劇場、今日から泊まり込みで準備。由美。いい雰囲気です。 3/25
- ヤマサ、雨倉貴洋・夏来さんの結婚披露宴へ淑子さんと二人で。土曜坐禅会、新聞サロンもありました。 3/26
- 鎌倉口福料理の打合せ浅野宅。 3/27
- 『仏教とマインドフルネス』読了。 3/28
- 鎌倉円覚寺の三老師大法要に参加。塩之内内科で定期検査。順調。 3/29
- 裏駐車場。みんなの家。梅林棟梁父子天井張り、左官屋さん、水族館建て込みにぎやかに諸工事進む。 3/30
- 和正住職は法要、塔婆書き、消防。私は

- 衣川賢次先生『臨濟録』再読了 4/8
- 建長寺で開山七五〇年忌公式委員会が発足、顧問となる。八年後。 4/10
- 京都仁和寺宗務総長、吉田正裕師の退任慰労会、了而、赤坂いざなみ(イトコの店)で二次会。弘兼さん来。 4/13
- 鎌倉禅研究会(三浦浩樹・山本勉両先生)六十人の参加。熱気あふれる 4/14
- 水族館劇場、監督・桃山さん。千代次さんと来山。体調の事うかがう。今年初めての筍堀。坐禅会満衆。 4/16
- 鎌倉口福料理「ゲスト」として参加。美味しい料理と歓談。浅野幸彦宅。料理は奥さんの田西ゆう子さん。星野造園、山門前などに杉苔植え。 4/17
- 宗禅寺詠歌講、満三十年のお祝い。表彰式を行う。よく続けました。これからもよろしく願います。 4/19
- 鎌倉円覚寺にて大休正念語録を閲覧。鎌倉ペンクラブサロンで山口道孝神父のお話を拝聴、福生もくせい会館で青年会議所歴代理事長会。 4/20
- 十時本堂で寺ヨガ。二時半写経の会読経、四時裏駐車場。みんなの家。完成祝。総代さん・梅林棟梁父子・近所の方々と楽

四月

- 水族館劇場、騒音対策の申し入れ、まだ始まっていないが。対応する。 4/1
- 林心耳展、関係者に礼状等発送。 4/2
- 朝粥坐禅会 十一人で。 4/3
- 寺にバグ犬来る。「ハナ」と命名 4/4
- 寺ヨガ教室、何と二十人。 4/7
- お釈迦様の花祭り。鳳友会の琴演奏。上原瑞光さんの花活け実演。御詠歌。全員で般若心経唱和。久し振りに通常の花祭りができました。 4/8
- 境内の除草で結構多忙です。今月の来山者は千四百人でした。

- しく宴会。皆さまお使いを。 4 / 21
 - 四時から六時。寺子屋勉強会。 4 / 22
 - 十時鎌倉寿福寺和尚津送。一時土曜講座
(高井和正・島田秀男・菊地玉雲) 七時半、
土曜坐禅会 4 / 23
 - 寺の片付け 4 / 24・25
 - 吉祥寺アツプリングで映画「杜人」を見る。
筍堀四回目。 4 / 26
 - 鎌倉建長寺で住職研修会。小川隆先生の
禅のお話拝聴。鎌倉学園松下新校長を表
敬訪問。 4 / 27
 - 吉祥寺で「ドライブマイカー」見て、久
し振りに黒猫で食事。 4 / 28
 - 五口市玉林寺晋山式へ。林心耳さんの娘
さん長友宅訪問。小川宝清寺にて和正和
尚と共に林心耳展見る。 4 / 29
 - みんなの家でルリ・カノ初風呂。水族館
劇場の方、家使用開始。 4 / 30
 - 四月はいろんなことが活発に繰り広げら
れました。ありがたいことです。四月の
来山者は九二〇人でした。
- 〔五月〕
- 月の初めに、朝粥坐禅会。一ヶ月を清新
な気持ちで。写経の会は十三人。 5 / 1
 - 寺ヨガ、本堂にて十五人の盛況。水族館劇場、舞
台完成祝。客殿にて祝宴。桃山邑監督、渾身の
あいさつ。久し振りに気持ちよく飲む。 5 / 5
 - 寺の前の駐車場、東側、電柱地中化工事
のために貸し出す。ほぼ一年。 5 / 7
 - 午後四時から寺子屋委員会。 5 / 9
 - 国立。永福寺住職の結婚披露宴 5 / 10
 - マリンバ奏者・林美里さん来山。水族館劇
場・林心耳絵見る。今年の十二月二十四
日マリンバ演奏会の寺公演決定。 5 / 14
 - 第二土曜日のリアルてらこや。筍堀・水族館
劇場実演見学、質疑応答など楽しくにぎやか
一時から土曜講座(和正住職・ゴナ篠田直・
小俣道代マジック)。夜は土曜坐禅会。合わ

- せて八十五人の来山。多彩な一日。 5 / 14
 - 星野造園 石楠花十六本植樹。御詠歌講
練習、たのしく茶話会。裏、第二駐車場
の常設トイレ完成。ひと安心。 5 / 17
 - 大船塩之内内科から建長寺・鎌倉禅研究
会(川本慎二・斎藤夏来先生)終了後、
尾崎にて十五人で小宴。水族館劇場、保
健所検査完了。 5 / 19
 - 橋本羽村市市長来山。水族館劇場・禅セ
ンターなど見てもらいました。禅センタ
ーでは健康体操をしていました。 5 / 20
 - 朝の坐禅、結跏趺坐を初めて満一年にな
りました。ほぼ達成。 5 / 22
 - 四谷ユニコ画廊へ。日本経済新聞社に伊
藤圭子執行役員を訪ね、四人で大懇親会。
気持ちよく酔いました。寺ではほとんど
飲みません。外飲みだけ。 5 / 23
 - 福生馬詰眼科、定期検査。メガネを新調
することに。 5 / 25
 - 水族館劇場の実演通し(ケネプロ)を見る。
明日から本番。 5 / 26
 - 国立新美術館でメトロポリタン展。水族
館劇場特別坐禅会も始まる。 5 / 27
 - 午後二時から客殿で沖繩五十年のトーク
イベント。土曜坐禅十五人。 5 / 28
 - 水族館劇場でウクライナ支援「クラウン
パレード」、満員爆笑。終わってからも、
寺の周囲をクラウン練り歩き托鉢を実施。
四十万円で八万円の喜捨をいただきました。
ありがたいこと。 5 / 29
 - 大島幹雄『日本の道化師』読了 5 / 30
 - 『禅学研究』誌、佐々木論文、衝撃 5 / 31
 - 境内整備・筋トレ・朝坐禅・読書・ウォ
ーキング・毎日の生活がほぼ定着しまし
た。寺の活動も順調です。皆さんのおか
げです。今月は千三十人の来山でした。
- 〔六月〕
- 立川アサヒカルチャーで館隆志先生の「栄

- 西と道元」を拝聴、吉祥寺で早稲田大学
の喫茶店、茶房、復活店。武蔵野文庫茶房
を訪ねる。五十年の昔にもどる。水族館
劇場で「昭和の阿国一条さゆり」トークシ
ョーを拝聴。永い一日でした。 6 / 2
 - 建長寺調査員の鈴木佐・三淵美恵子さん
来山。一峰院で大休慧防の調査。禅福寺
参拝、禅林寺で真浄先苗和尚の書、中里
介山の墓参、一作で昼食。宗禅寺で水族
館劇場公演見学。各寺院の和尚様が丁寧
に対応してくれました。 6 / 4
 - 高校の同級生佐野昭吉さん宅で。プチク
ラス会。本坊さん夫婦。 6 / 5
 - 住友クラブで益岡さん・沼田弁護士さん
と会食。沼田さんは織部流の茶の宗家の
方でびっくり。水族館劇場で夜七時、曲
馬館の昔の映画を見る。 6 / 7
 - アサヒカルチャー立川で金子啓明先生の
運慶を拝聴。府中美術館で「懐かしい明
治」展を見て、鎌倉芸術館でNPO法人
鎌倉てらこやの総会。了而大船で懇親会。
帰山十二時過ぎ。 6 / 9
 - 水族館劇場、最終日予定だったので貞観
園の評議員会は電話出席に切り替え、公
演は大盛況で一日延長。 6 / 12
 - 京都・禅文化研究所評議員会。花園大学へ。
水族館劇場千秋楽に駆けつける。 6 / 13
 - 四時から寺子屋委員会 6 / 14
 - 鎌倉から親交を深めるために立国ゴルフ
会二組。 6 / 15
 - 鎌倉松ヶ岡文庫評議員会 6 / 17
 - 宗禅寺土曜講座(和正和尚・青柳里江子
さん・荒井秀年さん)土曜坐禅会 6 / 18
- おかげさまで多様な催しが続きます。皆
さんの参加、協力のたまものです。今後
とも、どうかよろしくお願ひします。暑
い夏、健康にお過ごしください。

和正和尚日單

コロナも落ち着きを見せています。四月には羽村の神社の大祭も規模縮小ながら久し振りに開催されました。秋に向けてお寺のお祭りもできればと願っております。

○綾子さん体調不良始まる。 2/15

○綾子さん体調悪化。松原内科受診。 2/16

○綾子さん福生病院でPCR検査受診。送迎は私。 2/17

○コロナ陽性。綾子さん携帯に検査結果のお知らせ。コロナ陽性。 2/18

○PCR自主検査。正俊和尚、淑子母、私がPCR検査を自主的に受ける。 2/19

○検査結果通知。正俊和尚と淑子母も陽性確定。私は陰性。ルリカノは元気が、母親が陽性なので翌日からの学校はお休み確定。家族の大人で陰性は私だけ。最悪、私までもが体調不良になった場合は、ルリカノは谷中の実家に預けるしかないとも考えたあとは、お寺のことをどうするか。 2/20

○隔離生活。此の日から食事の支度担当に煮物なんて三島時代以来十年以上ぶりに作った。洗濯は淑子母がして下さい。檀信徒法要は二件を延期していただき、他のお寺さんから依頼されていた葬儀もお断りさせて頂いていただく。二十一日の写経は張り紙貼って中止。 2/21

○綾子さん入院。正俊和尚と淑子母が福生病院にて受診。綾子さんの病状を伝えるとすぐに連れてきて下さいとのこと、綾子さんも受診。綾子さん中等症、肺炎を併発しており即入院決定。しかし、両親は陽性、そして私は濃厚接触者なので、入院の荷物を届けに行けない。大工の梅林さんに荷物のお届けを依頼。ありがとうございます。 2/21

○隔離生活。お寺の写経会、坐禅会のメンバーさんに三月十日まで写経会と坐禅会を休止する旨をお知らせするハガキを急遽作成。夜にこっそりとポストに投函。ルリカノは天皇誕生日明けの二十四日木曜日から学年閉鎖が決まり、オンライン授業が行われることが決定。先生がお寺までオンライン授業用のパソコンを届けて下さる。 2/22

○オンライン授業。この日から三日間、東小学校一年生はオンライン授業。普通であれば学校に行けなかったルリカノがみんなと同じ授業を受けることができた。有り難い。先生も自宅から授業をされている様子でした。パソコンの操作が少し不安なので、最初の授業は隣について一緒に聞きました。 2/24

○正俊和尚隔離解除。この日を以って、正俊和尚の隔離解除。 2/24

○檀信徒葬儀へ。此の日から普通に法要、葬儀を執り行う。期間中は幸いにも体調不良にならずに済みました。 2/25

○淑子母隔離解除。此の日を以って淑子母も隔離解除。高井家に普通の生活に戻ってくる。ご支援いただきました皆様ありがとうございました。 2/26

○火災出動。この日から消防団活動にも復帰。 2/28

○東小学校保護者会。綾子さん未だ入院中のため、保護者会に出席。思ったより出席者が少ない。やはり共働きのご夫婦が多いんですね。 3/4

○綾子さん退院。血中酸素濃度も安定してきて、綾子さん退院。 3/5

○春の文化展実行委員会。文化展中止のため実行委員会も中止。 3/6

○春の火災予防運動。火災予防運動で市内を消防車で回り広報。 3/6

○水戸。五日市廣徳寺正量和尚と上川町福寿寺毛利和尚と三人で茨城旅行へ。三島龍

沢寺時代の修行仲間。霞ヶ浦、竜神大吊り橋、袋田の滝等。水戸で宿泊。 3/8、9

○映画撮影。留守中に宗祥寺で映画撮影。時代劇。 3/8

○東日本大震災追悼写経と法要。この日から写経会再開。3・11ということで東日本大震災追悼の写経会。写経後に追悼法要。 3/11

○土曜講座。羽村郷土研究会の岡崎学（さとる）先生と都議会議員の清水康子先生。清水さんはご自身がコロナ罹患した際のお話しをして下さいました。残念ながら、私はお話し途中でゆとりぎへ。 3/12

○羽村防災講演会。ということで、ゆとりぎで震災当時小学生だった宮城県東松島市の武山ひかるさんの講演を拝聴。毎年羽村市でも防災や東日本大震災に関しての講演会や展示会が開かれています。 3/12

○彼岸早朝坐禅会。春のお彼岸の坐禅会。 3/18、24

○寺子屋委員会。続・川崎系統図鑑を読む。各家のご先祖様が丸わかり。 3/22

○谷中。小学校が卒業式のため一日お休み。稲城で「君も博士になれる展」で遊んだ後に、谷中へ。お彼岸の墓参。 3/24

○消防。西多摩衛生組合で規律・ポンプ操法事前訓練。 3/27

○ピアノ発表会。ゆとりぎでルリカノがピアノの発表会。消防の訓練のため応援には行けず。 3/27

○水族館劇場。裏の駐車場にて劇団・水族館劇場が特設舞台の建て込みを開始。綾子さんと劇団員千代次さんと近所にあいさつ回り。 3/27

○ポンプ操法大会練習。この日から五月二十二日の大会当日まで、週4〜5回の練習開始。今回は選手・指揮者として参加です。二ヶ月に及ぶ長い戦いが始まる。 3/28

○千葉。春休みに入って親子四人で千葉へ。ふ

なばしアンデルセン公園と市原ぞうの国へ。

○始業式 ルリカノ二年生になる。今年からクラスは別々に。 3/30〜31 4/6

○花祭り 三年ぶりに花祭りコンサートを開催。お釈迦様の誕生日に生田流箏の生演奏と生け花草月流・上原瑞光先生によるお花の活け込みライブ。 4/8

○リアルてらこや 毎月第二土曜日午前中はリアルてらこや。鹿野川喜代美さんによる新聞を使った教室とみんなでおいごりを作って食べました。 4/9

○綾子さん病院へ 後天性の足の裏のホクロの検査のため、付き添いで立川医療センターへ皮膚がんの疑いがあるそうで、精密な検査をするために、足の裏の患部のホクロを切除して針で縫いました。 4/13

○食あたり生ガキに中つたようです。 4/15

○桃山さん 水族館劇場の桃山さんと千代次さんが来山。桃山さんが病気に入院していたらしく、そのご報告にわざわざいらして下さった。 4/16

○宗禅寺みんなの家 みんなの家の落成式をみんなの家で。総代さんとみんなの家のご近所さんと。 4/21

○リアルてらこや会議 ライ麦ハウスの皆様とお寺で会議。キリン財団の助成金審査に通過し、助成金を頂けることになりました。 4/22

○土曜講座 この日は中里介山忌。島田文庫長の講演と菊地玉雲さんの『大菩薩峠』の講談。 4/23

○バレエ発表会 ゆとろぎでルリカノのクラシックバレエの発表会。今回はピーターパンだったので、ストーリーが分かりやすかったです。 4/24

○綾子さん 検査の結果、足の裏のホクロはホクロで癌ではなかった。良かった良かった。 4/25

○カレーライス 昨年に引き続き水族館劇場の皆様の夕食に手作りカレーライスをプレゼント。一緒に食べて懇親。 4/27

○五日市玉林寺 田中典章和尚の晋山式に正俊和尚と随喜。 4/29

○五日市・長友さん 晋山式の前に林心耳さんの愛娘さんの長友さん宅を訪問。心耳さんが実際に絵を描いていたアトリエとして使用していた部屋でお茶をいたただく。帰りは小川の宝清寺さんに立ち寄り、林心耳さんの絵画を觀賞。 4/29

○平和島 綾子さんルリカノと平和島の室内アスレティックへ。その後品川水族館。コロナあれど、GWを楽しむ沢山の人がいました。 5/3

○寺子屋委員会 続・川崎系統鑑を読む。神明神社にある日露戦争出征者に関する資料も。 5/9

○ゴルフ 羽村のチャリティゴルフ大会に参加。練習全く行てなかつたのに、スコア新記録達成。でも、たかが154…。 5/11

○市役所防災課 野崎分団長と来年度新しくなる第一分団の消防車についての打ち合わせに市役所へ。 5/13

○土曜講座 福生のスポーツクラブGONNAの篠田直先生とマジシャンの小俣道代さん。多摩川近くの福生のグラウンドでサッカーとアルティメットのスポーツクラブをしている篠田さん。オンラインのメダリストよりも楽しんでらうことに主眼をおいているとお話し。でも、実績も凄いですよ。 5/14

○授業参観 東小学校の授業参観へ。二人は別々のクラスなので、一時限ずつ。国語と算数。 5/18

○東京都ポンプ操法大会羽村市代表選考会 西多摩衛生組合を会場に選考会。二ヶ月に及ぶ訓練の成果を出す日。結果は上位三番までには入れなかつた…。残念…。でも新入団員が頑張ってくれて良かったです。

練習期間中、団員からコロナ感染者も出なかつたのも良かったです。 5/22

○綾子さん コロナワクチン三回目接種。一度陽性になった人は少し間を置いてからのほうが効き目が高いらしいです。 5/22

○水族館劇場 いよいよ公演初日。前日まで台本の変更追加アリ。公演中も台本の変更はあります。桃山さん最後の作品に。 5/27

○水族館坐禅会 この日から公演日十七時半から一時間特別坐禅会。多い日で二十人近い人がご参加してくれました。 5/27

○沖縄返還五十年 沖縄出身・水族館の居原田遥さんが企画。辺野古県民投票の会の元代表・元山仁士郎さんを迎えて座談会。本土と沖縄の間にある温度差。沖縄基地問題は現在進行形。 5/28

○消防 車庫で操法大会の片付け。ホース洗い、操法用の備品を倉庫に片付け。車庫大掃除。これですべて終了。 5/29

○クラウンパレード ウクライナ義援金のチャリティ企画。お客さんで会場一杯になったようで一安心。 5/29

○映画上映会 桃山さんと千代次さんが所属していた劇団「曲馬館」のドキュメンタリー映画を客殿で上映。 6/7

○水族館 木曜日というのに大入り一八〇人。週末三日間の混雑を回避するために急遽十三日月曜日の追加公演が決定。有り難いことです。 6/9

○建長寺 毎年恒例の法話大会へ。テーマは「鎌倉を語る十三人」(武士と禅)。禅に限らず武士と仏教は繋がりが深いです。人を殺める武士にとって仏教は必要な存在でした。 6/11

○水族館千秋楽 五月二十七日から全十四回公演。皆さまお疲れ様でした。 6/13

土曜講座のお知らせ

歴史・文化・現代を通して、時代を見る眼を養っていきます。お茶代三百円。予約不要です。気軽に参加して下さい。

- ◆第六十八回 七月九日(土)十三時～十六時 仏教講座 日本仏教史・安土桃山時代
- 「キリスト教の伝来」 住職 高井和正
- 「西多摩の金融史」

- 愛知大学教授 早川 大介 先生
- 「水一生まれはどこ？何が好き？趣味は？」

東京農工大学名誉教授農学博士

島田 清先生

- ◆第六十九回 八月二十日(土) 十三時～十六時

- ・仏教講座 日本仏教史・江戸時代

- 「檀家制度の誕生」 住職 高井和正
- 「エベレスト登頂の夢を果たして」

- ・「よみがえる平曲・平家琵琶実演」

鎌倉在住・登山家 西川 史晃さん

- ◆第七十回 九月十七日(土) 十三時～十六時

新潟大学名誉教授 鈴木 孝庸 先生

- ・仏教講座 日本仏教史・江戸時代

- 「隠元隆崎と黄檗宗」 住職 高井和正

- ・「狭山茶のこと いろいろ」

- 「水族館劇場の公演を行って」

埼玉県茶業研究所職員 未定

劇団水族館劇場・棟梁 秋浜 立さん

鎌倉禅研究会のお知らせ

学びを継続しています。建長寺入山料五〇〇円、資料代五〇〇円。予約不要です。

- ◆第七十五回 七月七日(木) 会場 建長寺

- ・「都市鎌倉の成立過程 — 頼朝の時代 —」

鎌倉歴史文化交流館学芸員

大沢 泉 先生

- ・「北条氏の時代 (鎌倉殿をめぐる)」

東京大学史料編纂所教授

本郷 和人 先生

- ◆第七十六回 八月二十五日(木) 会場 建長寺

- ・「山口県に残る鎌倉禅の遺跡について」

建長寺調査員 鈴木 佐 先生

- ・建長寺の禅僧が書写した

『大宋高僧伝』について

元金沢文庫長 高橋 秀栄 先生

- ◆第七十七回 九月二十九日(木)

- ・「禅宗の説法 — 上堂とは何か —」

鶴見大学講師 徳善寺住職

尾崎 正善 先生

- ・「遣明船と五山禅僧」

東京大学史料編纂所准教授

岡本 真 先生

※時間はいずれも午後一時～四時半になります。

宗禅寺毎月の活動

お寺で新たな自分の発見を

- 朝粥坐禅会…毎月第一日曜日 朝6時～8時半 禅の食事の作法でお粥をいただきます。禅の作法は黙食です。7/3 8/7 9/4 10/2
- 土曜坐禅会…毎週土曜日子供:18時～19時 大人:19時半～20時半 繰り返しの腹式呼吸。深い呼吸でココロも安定。
- お盆早朝坐禅会…お盆中毎朝6時～7時(7月13日～16日)。山門上の鐘を撞き般若心経を読んで坐禅。予約不要です。
- 土曜講座…毎月1回の公開講座。13時～16時 地域文化と財産の再発見。いまある世界をより豊かに感じるために。
- 写経会…毎月1日、11日、21日、13時～15時 般若心経の写経をしています。支度、片付けは全員で。自分のペースで一文字一文字丁寧に。
- 御詠歌…毎月第1・3火曜日 1時半～3時 指導:高井淑子
- 手打うどん教室…現在2クラス開講中。月一回。講師:島田辰夫先生 ※現在お休み中です
- いきいきヨガ…毎月第1、第3木曜日 10時～11時 予約不要 ¥500 大きめのバスタオル要持参 講師:園部多恵子さん <https://www.instagram.com/tae.yoga/>
- リアルてらこや…毎月第2土曜日 9時～12時 ☎090-5542-6159(水野)
- 木彫教室…毎月第1・第3土曜日 13時～16時まで 講師:新井達矢先生 見学できます 仏像や能面を自分で彫ってみませんか? 月謝5000円(道具、材料費は別途) 新井達矢先生ブログ:<https://ameblo.jp/tapazyia-1982/>
- 俳句教室…毎月1回、適宜。問い合せ先:中野つたえ ☎554-2444
- 尺八吹禅の会…毎月第1、第3月曜 夜7時半～9時頃 坐禅15分、練習60分、問い合せ:坂井陵童 ☎554-3273
- 介護予防体操…健康体操の集いです。直接、禅センターにお越し下さい。毎週金曜日14時～16時
- お寺deこころの相談…タロットによる心理セラピーです。ハムサまで 毎週日曜日13時～18時 要予約 090-6792-4784
- 新聞サロン…毎月第4土曜日13時～14時 新聞を楽しみ読んで世界を広げよう。活字から読む力を お子様の参加大歓迎です。要予約 090-6549-0751 講師:鹿野川喜代美さん 042-554-7343 まで
- 女性サンガの会・業師講・寺子屋委員会・護持会 — 活動中です —
- 禅センター・みんなの家、お使い下さい。 ■各会の会場:●は宗禅寺 ○は禅センターです